

新式
中等習字帖
中

文學士高津敏三郎編
愛石玉木本三郎書

K220.72
48
2

K220.72

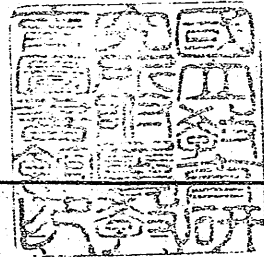
48

2

第一習

埋理默點
旋施廷延

埋没理由。沈黙評點。周旋實施。法廷延期。



凡例

一、本帖は明治四十四年七月三十一日發布の中學校教授要目に
基づき中學校及び同程度の各學校教科書に充つる目的にて
編纂せるものなり。

本帖の書體は要目に準據し、上卷に楷行書、中卷と下卷とに楷
行草書を課し、各卷ともに細字及び假名を併せて練習せしむ
ることを期したり。

本帖教材の配當は實際教授時數の増減によりて斟酌せらる
べく、其の順序も適宜教授者に於て變更するも可なり。

明治四十四年十一月

編者識

對野趣 送秋聲 送秋聲 送秋聲

送秋聲 送秋聲 送秋聲 送秋聲

對野趣 對野趣 對野趣 對野趣

哀悼。哀情。兄弟。次第。幻燈。幼年。贈與。興味。

哀哀弟第 幻幼與興

此字。操筆。以水。火。味。已。散。各。水。並。試。其。效。

以 心 興 興
疾 疾 流 流

增刊。刑。事。科。目。料。理。高。低。抵。當。積。立。成。績。

刊 刑 科 料
低 抵 積 績

新。也。此。也。四。也。五。也。六。也。七。也。八。也。九。也。十。也。

新。也。此。也。四。也。五。也。六。也。七。也。八。也。九。也。十。也。

新。也。此。也。四。也。五。也。六。也。七。也。八。也。九。也。十。也。

東京。大阪。名

古。屋。横。濱。神

戶。商。業。繁。昌。

之。極。樂。樂。回。
古。風。糖。蜜。餅。
東。京。大。好。名。

いろはにほくとちりぬるを
わかよたれそつねならむう
るのおくやまけふこゑてあ
たまゆめみしゑひもせす。

たいていその一級におおた。
そのほかのMET、インダスト
ル、エレクトロニクス、ア
ニマル、インフォメーション

我が國の政治上の中心は東京なま
ども商工業の中心は大阪を推さ
るを得ず大阪の紡績會社マツチ
工場等の数甚だ多く煙突林
立して晝なや暗きが如し。

願屆缺席早退。
試驗答案問題。
番號及第優等。

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes, written vertically from right to left. The text is difficult to decipher due to the cursive style.

番。語。及。英。對。譯。
信。銀。答。表。問。題。
願。國。姓。新。早。題。

禮。裝。洋。服。帽。子。
袴。羽。織。祝。賀。會。
卒。業。式。紀。念。祭。

卒業生。卒業生。卒業生。
新。新。新。
新。新。新。

貸地家賃貸貨幣。
資本消費賛成。
仲買小賣商賈。

專務傳票簿記。
事項領收預金。
債券漬物積立。

中買心賣商賣
資本商賣賣商
賣商賣商賣商

對。米。貴。必。蘇。也。
車。取。賤。必。財。金。
專。怒。專。無。信。

物。徂。徠。看。書。向。暮。則。出。就。
簷。際。簷。際。亦。不。可。辨。字。則。
入。對。齋。中。燈。火。故。自。旦。及。
深。更。手。無。釋。卷。之。時。其。平。
生。惜。分。陰。者。率。此。類。也。

盛年不重来一
日難再晨及時
當勉勵歲月不
待人。

来年の来年はとて暮まらばけり。

盛年不重来一
日難再晨及時
當勉勵歲月不
待人。

或人
昔遊歐陽日不
日幾何味又甜
適年以何味一

蘇軾詩集卷之八

あだたに過すな。今日の日は。けふは
再びかへり来ぬ。むだなる暮らな
らぬ年を。今年にまゐる廻り来む。
たゞ時のあの日かげたよ。惜みし
人。あつたのふ。夢まじの道に集
らむよ。梳おらず。摘免よ。教へ草。

大禹聖人乃惜寸陰。至於衆人當惜分陰。(陶侃)

大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日
 大正十一年九月二十日

陽子の發するところ
 空名も亦發する精神
 一たび到らば何事か
 事らざらん。

牧畜種樹。
染織農菜。

牧畜種樹。
染織農菜。

第十六習

米。麥。豆。粟。
野。菜。肉。類。

第十七習

水。言。動。林。
動。海。農。菜。

鹽菜肉。雞。
米。葱。豆。豉。

薪炭酒茶。
砂糖醬油。

我が國ハ到る所ニ山林多く樹木
ノ種類も亦甚だ多し而して良
材を産する地ハ奥羽西野伊豆
駿河遠江伊勢大和紀伊信濃
飛騨及び九州等なり。

新 穀 産 出
新 穀 産 出

實業を擴張し富
源を開拓するは國益
を圖る本旨なり。

實業の發達は富の源なり。富の源を開拓するは國益を圖る本旨なり。實業を擴張し富源を開拓するは國益を圖る本旨なり。

の國を存せん。

實業の發達を以て國權

實業の發達を以て國權

我場を以て強敵を打ち破つたあの決戦と
覚悟を以て各種實業の發達は向か
我が大和民族の必死の戦なりとらしてよ
我場の我國民たるもの此覚悟のほ
と我々の實業界は奮闘してなほ
力を盡すまでなげなすべし。

ちりたれはたしむるべきに
たれはたしむるべきに
たれはたしむるべきに
たれはたしむるべきに
たれはたしむるべきに
たれはたしむるべきに
たれはたしむるべきに
たれはたしむるべきに

人よは貴賤貧富の別
有りと雖も各々其の分に
應じて常より財用を節
する心得なかるべからん。

凡そ人の足る事を知らざるは
其の足る事を知るに足らざる
其の足る事を知るに足らざる
其の足る事を知るに足らざる
其の足る事を知るに足らざる

凡そ人の足る事を知らざるは
其の足る事を知るに足らざる
其の足る事を知るに足らざる
其の足る事を知るに足らざる
其の足る事を知るに足らざる

健康。身體運動。
飲食。睡眠。沐浴。
清潔。消毒。衛生。

健康な精神は健康な身體に宿る。

健康。身體運動。
飲食。睡眠。沐浴。
清潔。消毒。衛生。

齊藤君の書状に於ての御返事

先般お成された御返事は、
先般お成された御返事は、
先般お成された御返事は、

拝啓。先般お成された御返事は、
先般お成された御返事は、
先般お成された御返事は、

○演習一、此文を字切に書き、氏名月日宛名を記入せよ。

○ 演習一、此名文章を端書面と記せ。

○ 演習二、此名文章を端書面と記せ。

○ 演習二、此名文章を端書面と記せ。

能收領

金百五拾圓也

金印本家百五拾圓

在金額字能收也

明治十五年十月一日

富山德藏

福田利平標

Handwritten Japanese text, likely a receipt or document, written in cursive style.

明治十五年十月一日

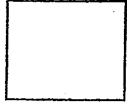
高松市福田町番地

きかは便郵

大谷利生様

武蔵国王子町
福子五番地

加島左郎



高松市福田町番地
内國通商會社在在様
貴地國家郵便局様
宛向此段書中云々

昭和十一年十二月廿

高松市福田町

中 廿七

高松市福田町

内國通商會社在在様

貴地國家郵便局様

宛向此段書中云々

昭和十一年十二月廿

高松市福田町

高松市福田町

第 4 册

44

第一回 第一卷

第二回 第二卷

第三回 第三卷

第四回 第四卷



第五回 第五卷

第六回 第六卷

第七回 第七卷

第八回 第八卷

第九回 第九卷

第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

第二十八習

中 廿八

履歷書

本籍地 神奈川縣高坐郡相原村大字橋本土番地

現住所 東京市本所區林町八番地武田信吉方

平民勸作四男 山本四郎

明治二十四年三月生

學業

一明治三十年四月朝日尋常高等小學校ニ入學シ三十八年

三月尋常科卒業

一明治三十六年四月縣立第五中學校ニ入學シ三十九年四月迄

在學今年五月家事上ノ都合ニヨリ退學ス

一明治三十九年十月ヨリ四年三月迄東京研數學館ニ數學及

簿記學修業

業務

一明治四十年六月ヨリ十二月迄某商會店員見習トシテ雇ル

一明治四十二年八月ヨリ製粉業ニ從事ス

右之通

明治四十五年三月

右

山本四郎

12207

明治四十四年十一月五日印刷
明治四十四年十二月十日發行

定價金貳拾錢

不許複製

編者 高津 鞆 三郎
書者 玉木 本三郎
發行者 東京市日本橋區數寄屋町六番地 木田 吉太郎
印刷者 東京市京橋區八丁堀仲町十番地 遠藤 銓吉

發行所

東京市日本橋區數寄屋町六番地
集文館

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page, including names and dates like 明治四十四年）

